

学校教育目標	「かしこく (Growth、知性、確かな学力)、やさしく (Global、感情、豊かな心)、たくましく (Grit、意志、健やかな体)」
目指す学校像	「学び」でゆるやかにつながる「みんなの学校」～多様性と包摂性、それを支える寛容性の実現～
重点目標	1 教育DXを活用した「自立した学習者」の育成 2 生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実による「誰一人取り残されない教育」の推進 3 学校運営協議会とSSNを核とした地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全な教育環境の整備。 5 教職員のキャリアアップと働き方改革の推進により、やりがいと意欲をもって職務に当たれる職場づくり

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○令和6年度さいたま市学習状況調査によると、各教科においてどの学年も市の平均値に達していない。 ○令和6年度学校評価アンケート(児童)において、タブレットの活用に関する項目で、肯定的・やや肯定的な回答が93.1%であった。 (課題) ○学習に対して「やってよかった」、「もっとやりたい」と感じる児童が少ないことから、児童主体の学習活動の機会を十分確保していく必要がある。 ○個別最適な学習を推進するために、ドリルパークや書き込み式のドリルを活用していく必要がある。	・教育DXの活用による学力の向上 ・ICTの積極的な活用	①学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を軸にした授業展開を行う。 ②教育委員会から指導者を招聘し、学校課題研修の方向性や手立てについて指導、助言をいただく。 ③年間を通して、1人1回の授業公開を行い、管理職から指導・助言を行う。	・学校評価アンケートの「学習について」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:19.2%→R7:18%) 保護者 (R6:11.9%→R7:10%) ・学びの指標アンケートにおける「主体的な学び」についての項目で1回目よりも2回目の数値を向上させることができたか。 ・学校評価アンケートの「タブレットの活用」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R6:64.2%→R7:65%) 保護者 (R6:36.3%→R7:38%)			
		・児童一人ひとりの実態の把握と生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実	①目白大学と連携し、リハ専門職によるサポート及び教育相談を実施する。 ②特別支援教育ネットワーク連携協議会やさいたま市教育委員会から指導者を招聘し、指導・助言をいただく。 ③スクールロイヤーによるいじめ防止特別授業を実施する。また、保護者にも公開する。	・学校評価アンケートの「いじめの認識」における項目で肯定的・やや肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R6:80.5%→R7:82%) 保護者 (R6:46.1%→R7:48%) ・学校評価アンケート(保護者)および(児童)の「相談相手について」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:5.5%→R7:5%) 保護者 (R6:7.4%→R7:7%)			
3	(現状) ○児童と地域の方が気軽に交流できることを目的とした「コミュニティルーム」が定着しはじめている。 ○地域の児童センターなど学校と地域の施設との関わりが深く協力的である。 (課題) ○学校運営協議会の充実に向け、小中合同開催のよさを生かした熟議や取組について考えていく必要がある。 ○学校ホームページ等を活用し、学校の状況を定期的に情報発信する必要がある。 ○一小・一中の地の利を生かして、小・中の学びの連続性を強化していく必要がある。	・コミュニティルームの活用と地域との連携	①コミュニティルームについて地域関係者に周知する。 ②学校の状況を定期的にホームページに更新し、情報発信する。 ③小・中合同研修会および小・中相互の授業公開を行う。 ④地域への関心を高めるため、学校運営協議会や避難所運営訓練に児童を参加させる。 ⑤地域の行事について児童に周知する。	・学校評価アンケートの「郷土愛」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:6.8%→R7:5%) 保護者 (R6:28.4%→R7:27%) ・学校運営協議会委員へのアンケートにおける該当項目において肯定的・やや肯定的な回答の割合が85%とすることができたか。 ・学校の状況を学校ホームページで情報発信することができたか。			
		・安心・安全な教育環境の整備	①安全点検(毎月)および校内巡視(毎日)の確実な実施を行う。 ②教材教具、備品の管理補充等を適切に行うための身に審査会を実施し、予算の確実な執行を行う。	・学校評価アンケートにおける「教育環境の整備」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・学校配当予算における「備品費・消耗品費」の執行率95%以上とすることができたか。			
5	(現状) ○教職員はチームワークよく協力して業務にあたっている。 ○教職員の年齢構成は二極化しており、ミドルリーダーが少ない。 (課題) ○それぞれの教職員のキャリア段階や担当校務分掌など個に応じた研修の奨励を行う必要がある。 ○誰もが学び続けることができる職場環境づくりが必要である。	・教職員一人ひとりが主体的・協働的に研修や教育活動に取り組む学校づくり	①当初面談による中長期的な目標や希望する研修・役割の確認を行う。 ②キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を用意し、定期的に振り返りと管理職との対話を行い、達成状況の確認を行う。 ③OJTの機会を奨励する。	・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等